

四月二〇日、PNC（パレスチナ国民会議）が開催された。アンマン（パレスチナ解放戦線・アッバース派）である。結局、PFLPらの旧民主連合がアラファト潮流に合流する。PLOの再統一にむけたPNCの開催は、八三年二月の第一六回PNCから実に四年ぶりである。

参加したのは、DFLP（民主戦線）、PCP（パレスチナ共産党）と宣言をした。ALF（アラブ解放戦線）とPLF（アラブ解放戦線・アッバース派）である。PLOの再統一にむけたPNCの開催はそれをもつて「再統一は実現した」と宣言した。

確かにこのPNCの開催自身が画期的なことである。PLOの再統一に向けて大きな前進をした。PLOは、今、アラチナ解放人民戦線（アラチナ人民派）とPLF（パレスチナ解放戦線）とPNSF（パレスチナ民族救済戦線）からPFLP（パレスチナ人民戦線）とPLOがアラブ諸国の国家政策に影響されるえないといふ現状を示したものはない。かくして、アラブ諸国との統一の環の役割を果たしていたPLOは、今、アラチナ人民にとって、このPNCの開催は喜ばしいことである。とりわけ、

かくして、統一は新たな分岐でもある。アラファト潮流と旧民主連合の合流は、旧民族同盟、ファタハ革命評議会（アブ・ニダル派）との新たな分岐を意味している。この克服は困難なものとなる。なぜなら、それは現在の中東和平国際会議の開催にむけた動きと関わって路線的な相

第一八回PNCと中東情勢

一九八七年五月一〇日

目次

第18回PNCと中東情勢	1
(日本赤軍特別資料) 5・30リッダ闘争15周年にあたって	6
第18回パレスチナ国民会議決議(資料①)	8
シリアーソ連共同声明要旨(資料②)	11
レバノン共産党書記長ハウィ氏記者会見要旨(資料③)	12
第18回PNC開催へむけた動きと反応(資料④)	13
激動の中東ドキュメント(1987年4月11日～5月4日)	14



第24号

発行 ウニタ書舗
東京都千代田区神田保町1-52
TEL. (03) 291-5533
編集 J.R.A.
郵便振替 東京1-48443
三菱銀行神保町支店 当座9012656
会員制 年会費20000円

れた。アラブレベルでは、ヨルダンからの追放、エジプトとの関係などはまったく問題ないものとして報生される一方、レバノンでの「キリスト戦争」に関してアマルとシリヤに対する批判が強くなっている一面的なものであった。国際レベルではソ連をはじめとする社会主義国の兄弟たちとの共闘、援助の発展がのべられ、各国の民主的進歩勢力との連帯強化、そして国際和平会議ニーシアチブの発展の方向がのべられた。この政治報告の一面性に抗議するためPFLPなどいくつかのパレスチナ組織は退場したと伝えられる。この政治報告から大会決議内容に転換していく過程で激しい論議がかわされた。二四日からの決議をめぐる討議で争点となつたのは、①ヨルダンのエジプトとPLOの関係、②中東和平国際会議、③PLO指導機構の再編について、であった。

で、エジプトとの断交を明記した決議）、第一六回 P N C 決議に沿うことが確認された。この確認が発表された P N C 会場では歓声と拍手で埋まる一方、エジプトとヨルダン代表団は抗議して退場した。

中東和平国際会議については、シオニストのワイツマンからアラファトに提案されたという「直接和平交渉」が政治委員会に出されて、討議された。結論からいえば、P N C 決議と P L O 憲章、ヌイズ憲章に沿った「国連決議は沿った中東和平国際会議」がイニシアチブづくりに協同していく立場が確認された。

P L O 指導部の改革については、議長権限の縮小、P L O 執行委員会の決定、執行権の拡大等が提案され比較的スムーズに確認された。とりわけ、アラファトの独断専行を統制するため、主要組織代表五人で構成する議長書記局的機構を新設したことが目新しい。

総括的には、今大会が P L O 再統一に向けて大きな前進を果たしたこと、結果としてエジプトとの断交など左派的な決議としてまとまつたといえるだろう。これは、従来のアラファト路線では考えられないことであり、それだけ P L O としての再統

一がアラファート派としても切実だるものといえる。しかし、他方で、このPNC決議が文字通り実行されるか否かは別の問題である。過去において実際にあの「六回アルジェンティーノ」議でPLOのベイルート撤退以後のPLOとしての統一を讃美し、CDR国家エジプトとの関係断絶、ヨルダントとの連邦国家構想の否定などを確認しているにもかかわらず、PNC直後からファッハ内分裂が決定的となり、アラファート派がベカーから、ついでトリポリから反アラファート派によって追い出され、エジプトにいたり、ムバラクとアラファートの会談が行われた。そして、ヨルダンとの関係も復活し、アンマン「PNC大会」そしてアンマン合意へという一連の過程を思い返すとき、決議をアラファートがそのまま遵守するとは信じがたい。そのアラファートをして再統一へ向かわせしめたのは、やはりソ連をはじめとする社会主義国のPLO再統一に向けた援助であったし、PLO自身の危機意識である。実体としては小さいものであつたとしても、PCP(パレスチナ共産党)のPLOへの参加と共産主義潮流PFLP、DFLPの復帰はやはり画期的なことである。ますます階級分

化が進んでいる現在、共産主義者の結果たゞ役割が大きくならねばならぬ。それは民族解放というレベルにおいても、またアラブ総体の革命の牽引力となるという意味においてもある。

PNC決議が左派的にまとまつたことについていえば、このPNCに對してシリアがいかに影響力をもっていたかということである。シリアはこのPNCの在り方を望んでいたわけではない。アラファトの指導性を再確認するようなPNCの開催はレバノンの安定化を望むシリアにとってレバノンでの困難を増大することにもなり、もともと歓迎するものではなかった。しかし、PLOとしてパレスチナ革命勢力が統一されることに反対しているわけではない。ただ、CD協定を結んで、イスラエルと取り引きをしている国と直接に共同する路線をとることは認めがたいという立場である。その立場は、PNC決議として確認されたが、それは明らかにシリアの影響力の反映である。

— P N C 開催への結論
—

の昨年來の動きは、PFLP、DPLP等の旧民主連合とファッハ・中東委員会との話し合いから始まる。この背景には、第一にソ連がダルバチヨフ指導部に代わって、反対対峙の方針を国内革新を通じた緊張緩和を軸とする政策の方向を重点化してきていることがある。それは中東では中東和平国際会議の開催に同心をおくようになり、その分PLOの統一を積極的に支援するようになつたのである。第二には、PLO(第一の障害となつていたアンマン合意)が実質的に無効となつてきていたことである。第三に、レバノンにおける「キャンプ」戦争である。キャンプを防衛し、パレスチナ勢力の物質基盤の再構築をめざすアラファト運動の動きに反発してキャンプを包围攻撃するアマルに対し、反アラファ特派も含めてパレスチナ勢力の実体的共同が進んだのである。

PLO抜きの国際会議を通してヨルダンを直接交渉に引きこむことにとどまる。ヨルダンの本音も、それと違わけではない。西岸において、実質的にヨルダンとイスラエルの共同統治が進められていることをみてもそれは明らかである。PLOとして、このPLO抜きの進行に歯止めをかけることが切実に問われていたのである。第二に、ICO（イスラム国会議）サミットで、シリアがアラブ民族主義の立場を強調し、広汎アラブ勢力の統一と改善に動き始めたことである。アラブ政治の中では、パレスチナ革命の担い手としてのICOの位置がますます低下し、ICOの分裂状況の克服なしには、PLO抜きの中東和平の方向へアラブ主体が動くとパレスチナ勢力が考えたのである。第三に、「キャンプダービー」と西ベイبلートへのシリア軍介入によって、レバノンにおけるレズチナ革命の存在そのものに困惑が増大したことである。

PLC在席による統一に反対する
ファタハ反乱派とサイカを除く六組織が、三月下旬、リビアのトリポリで会合し、PNCに向けた統一的立場をうち出した（前号資料参照）。トリポリ合意とよばれるこの内容は旧民族連合の主張であったアラファートの議長解任が盛り込まれていて、集団指導制をつくり出すことを要求するにとどまっている。政治的にはブレジネフ提案の国際和平会議の支持とPLOの独立と対等の立場に立っての参加をうたっている。国家関係では、ヨルダンとのアンマン合意を破棄、CD国家であるエジプトとの関係断絶、そしてシリアとの友好関係の重要性をうつたえている。そして、組織的には、第一六回PNCのメンバーによつて、アルジェでの会議を第一七回PNCとして開くことを要求している（アンマンでの会議を第一七回PNCとしては認めないということ）。これらは旧民族連合の現実的路線への転換であった。

二
第一回 PNC

エジプトとの関係の断絶をするかが決定された。この民族対話の過程でPFLP・GC（総司令部派）はF（人民闘争戦線）とファタハ、アラブ評議会派は、トリポリ合意の基点が確認されないでいるとして、PFLP・GCはPNCに参加を表明、逆にDPLP、PCO（パレスチナ共産党）はPNC内に討議するとして参加を表明、四月二〇日PFLP・GC（タラタ・ヤコブ派）も、PFLP（イスラエルの空爆に備えたミサイル攻撃体制が敷かれる中、「第一八回」）としてPNCは開催された。

違が存在しているからである

して、いたシオニストの労働党党首で、外相のペレスが国際会議を唱えだし

によって來たるべき國際和平會議に對してP L Oの立場を確保しようとする動きが出てきた。

破棄されたも同然となつてゐるアマン合意のPLOとしての公式破はすぐに合意された。問題は、C

の再統一は中東和平国際会議開催に向けた主体的条件として不可欠のことであった。しかし、シリアにとって PLO の再統一か否かは大きな問題ではない。シリアにとって問題なのは、エジプトのように、米、イスラエルと単独・直接の交渉をし、アラブの対イスラエル戦線を崩し、裏切っていくことである。PLO アラファートがヨルダンともエジプトとも単独直接交渉路線をもって共同してきたこと、そして、シリアの反帝反シオニスト戦線構築と敵対する構造をつくってきたことが問題なのである。そこで、今回の共同声明においては「反帝反シオニストを基礎としたパレスチナ抵抗運動の統一の復讐の必要性で一致した」と表現されている。

また、国際和平会議についても、「部分的単独的な解決方式、CD 方式では、中東問題は解決しえず、当事者が国連の監督下で有効な国際会議を行っていくことが、公正で包括的な解決になる」という点で一致しているが、アサドは「シリアは国際和平会議の目的が六七年中東戦争以来のイスラエルのアラブの領土占領を終わらせるというものであれば支

五 敵味方攻防の焦点 レバノン

シリアル軍の西ベイルート介入から二ヶ月半、五月一〇日、ついにベイルート国際空港が開いた。これは、シリアルの政治的勝利である。右翼キリスト教徒側が東側（キリスト教徒地区）に新国際空港を開こうと策謀し、西ベイルートにある国際空港に砲撃をつづけ、閉鎖して以来、空港機能のない西ベイルートは港のない港町同然であった。国際空港を再開させることはシリアル軍の大目標の一つであり、治安回復、西欧諸国との関係回復のバロメーターであった。

だが、この空港再開に先だつ五月四日、举国一致内閣を組織していたカラミ首相が突然辞任を表明した。カラミは主に右翼マロナイトのボス、シャムーンが閣僚会議の無効性を主張したことによる）、そして PSP のジユンブラットによる激しいカラミ批判と地域自治の強化のよびかけ等と一連の動きの中で、行政能力を完全に喪失したカラミは辞任に追い込まれた。これは、敵の策謀でもあり、味方の不統一の結果である。同時に経済的破綻はきわめて深刻化している（八六年の国家予算の三三〇〇億トルの二七一六〇億トルしか歳入が今や一ドル一八ポンドという為替レートの下落である）。

問題は非常に政治的である。このような経済的破綻は、行政能力以前に、各宗派組織がカントン化（各地方州の独自化）を進め、国家への集中をはからることにある。とりわけマロナイト側はその独自化を進めってきた。

米帝は、この状態につけこんで、レバノン問題に再び介入しようとしている。四月二八日在レバノン米大使ジョン・ケリーはアミン・ジエマインエルと会談し、七月から八四〇万ドルの食糧援助を行うと表明した。

マロナイトの主教スフェイエルがバチカンと密接な関係にあり、アミンもまた米帝との関係を強めようとしているところで、シリアルとの会合が進展しないのは当然ではある。

レバノンの国内の問題と同時に、この間のレバノンは、南部を中心に戦事的緊張を高めている。四月一九日、PNC の開催される前日未明、ファタハに属する戦士たちが南レバノンから被占領地パレスチナに入つて敵イスラエル軍と交戦したとファタハは発表、三人の戦士死亡、二人

しての基本線であつた。PFLPはこの基本線をふまえて PLO の再統一に努力した。その努力は讃えられるべきであろう。PNC大会後、ダマスカスに向かつて、五月五日アサドと会談したハバジュは、アサドが「PNC大会は積極的第一歩をのみだした。PLOとしての発展を喜んでいる」と語つたと、会談後表明したしかし他方で、PNSF（PNCに参加しなかつた PFLP・GCA・PSF・ファタハ反乱派、サイカ、そしてファラーム第一・六回PNC議長）に対しても、アサドは投降主義、敗北主義に反対し、反帝反シオニストの大義と闘争を支持しつづけると、PNSFとの会談で表明している。シリアルは、反CDである限り、PLOもPNSFも共に支持する立場に立つている。ICOサミットでもその立場は一貫していたようにシリアルは反CDアラブ民族主義とし

四月二七日、PNCでの対エジプトのPLC事務所閉鎖

逆にフリー・ハンドで独自のプランを進めている。それを象徴するのはヨルダン議会選挙の企みの進行である。ヨルダン議会に西岸代表を含める法の実施はパレスチナ人民唯一合法的な代表というPLOの位置を覆すものとなる。「西岸開発五ヵ年計画」とい、ヨルダンは実質的に、PLO抜きのイスラエルとの和平、共同統治を推進している。これはPLOにとってもっとも危険な動向である。ヨルダンにとっては、結局のところイスラエルとの「平和共存」がもとも望ましいゆえに、それをおびやかす存在は除去しようとするであろう。PLOはもはやヨルダンの対米政策のカードとして有効ではなくなっている。エジプトのようにアラブから追放されず、かつイスラエルと「平和共存」「共同統治」を実現しうる道をヨルダンは進んでいる。

エジプトもヨルダンも共に中東和平国際会議を進めようとしているが、それは国家の独自利害の追求と自らの立場の正当化でしかなく、帝国主義、イスラエルとの対峙においてとうより交渉を通してと考えている以上、牽引力をもちえない。その意味

國際和平會議

四 ソ連、シリア共同声明と
国際和平會議

P N C 一八回大会とちょうど同じくして行われたシリア大統領の訪ソ、首脳会談とその後に出された共同声明は、中東の現状を把握するうえで、重要な内容をはらんでいる。

結論からいえば、ソ連もシリアも相互に相手の現在の立場を認め、尊重し合った会議であった。つまり、ソ連の「核戦争の危機の除去、世界平和の達成、緊張緩和」という平和攻勢と、シリアの「米・イスラエルに対する戦略的バランスの達成、イスラエルを六七年ラインまで撤退させ、ゴラン高原を奪回する」という戦略方向を、双方が認めあつたうえで、協力を強化していくということである。

もともと、ソ連とシリアの間には政策展開における相違が存在していた。一つは P L O に対する立場において、もう一つは中東和平国際會議についてである。P L O に対し、ソ連は現状の中で P L O の再統一は最重要として、アラファト派、P F 、D F に働きかけ、それが今回の P N

のイスラエル兵が殺されたという。四月一七日には、ハジビッラーがリタニ河を見下すイスラエル基地を攻撃、ハジビッラー戦士一人が死亡し、イスラエル兵は四人負傷したといわれている。活発化している南部レバノンでの闘争に対し、イスラエルは、南部レバノンでのパレスチナ人拠点、とくにサイダに対する攻撃を強化している。今年に入つて空爆は一四回にもおよび、五月に入つて、北部のイスラエルの激しい空爆は、拳銃による犠牲者を増やした。これは、明らかにPNC一八回大会に対するイスラエルの反応である。同時に、中東和平国際会議をめぐって対立の深刻化している連立内閣内の労働党とリクードの対立を決定的にせず、力を外に向けようとする企てもある。

こうして南部レバノンにおける戦闘の激化は、シリア軍が西ベイルートに入つて以降、西ベイルートに集結していた各武装組織がサイダに移動し、サイダから南レバノンでの活動を活発化しているためであるといわれている。シリア軍は、サイダに全面的に展開する様子はなく、またサイダへの展開は、イスラエルに対する「直接の脅威」となるために、

しかし、これは帝国主義の危機意識の反映です。そして、この攻勢は二一世紀への延命を展望して進められました。社会主義国もまた二一世紀に敵を逆制約する地理的規模の勝利を展望し、これまでのあり方の再編を開始しています。

敵の危機と混乱は革命に向けた観点からいえば激動の予兆であり、味方の前進の契機です。激動へと切り開くか否かは我々の主体的主導的な闘いにかかっています。思想性・組織性・党性に基づく戦闘的で組織的な力に結束する味方の広範な力を形成し抜く好機です。いつの時代でも激動の予兆に対決し、切り開く戦列があれば、革命的転換をかちとれまう。キューでも、イランでも、フィリピンでもそうであったように。今こそ戦士的連帯を強める時です。

日本人民の歴史は、四五年、五六年、六〇年と激動の予兆に対峙し

きらず、準備なき激動期を迎え、その急速な流動に埋没し、抗しきれず敗北してきたことを示しています。

高揚期には味方をしっかりと固め、激動の予兆期には断乎とした戦闘的

連帯抜きにはありえません。その視点をもつてこそ、日本人民の闘いをより発展させることができます。

そのためには、第一に国際的流動に呼応し、反米反軍拡に集約して

いた日本進路を定めなければなりません。

第二には、地域に根ざし生活と闘いを一つとして未来の人民権力を現す。それは日本国内のことだけに目を奪われることなく、平和と解放を求め、核軍拡と抑圧に反対する世界の反帝人民勢力と共に進むことです。

第三には、いついかなる時でも戦端を切り開き、かつ人民の闘いを防衛しなく戦闘的隊伍の形成です。

それらの闘いは、未来を切り開く

のイスラエル兵が殺されたという。四月一七日には、ハジビッラーがリタニ河を見下すイスラエル基地を攻撃、ハジビッラー戦士一人が死亡し、イスラエル兵は四人負傷したといわれている。活発化している南部レバノンでの闘争に対し、イスラエルは、南部レバノンでのパレスチナ人拠点、とくにサイダに対する攻撃を強化している。今年に入つて空爆は一四回にもおよび、五月に入つて、北部のイスラエルの激しい空爆は、拳銃による犠牲者を増やした。これは、明らかにPNC一八回大会に対するイスラエルの反応である。同時に、中東和平国際会議をめぐって対立の深刻化している連立内閣内の労働党とリクードの対立を決定的にせず、力を外に向けようとする企てもある。

こうして南部レバノンにおける戦闘の激化は、シリア軍が西ベイルートに入つて以降、西ベイルートに集結していた各武装組織がサイダに移動し、サイダから南レバノンでの活動を活発化しているためであるといわれている。シリア軍は、サイダに全面的に展開する様子はなく、またサイダへの展開は、イスラエルに対する「直接の脅威」となるために、

しかし、この軍事的攻防の激化は、被占領地内のパレスチナ人民、他のアラブ人民の闘争の激化とも重なるイスラエルの直接のレバノンに対する再侵略の危険性も大きくして対する再侵略の危険性も大きくなっている。それは八二年と違った戦術展開かもしれない。レバノンの安定は、進歩勢力の共通の願いであると同時に、自己の権益を拡大したいと考える進歩勢力内の矛盾は今も解決されない。また、レバノンの安定は、反CD路線でイスラエルと対話し、アラブ民族主義としての統一をはかるシリアにとって死活問題である。ベイルート空港の再開で、その安定化の努力は軌道にのつたかに見える。しかし、サイダを焦点として南レバノンの緊張は、国際和平會議をめぐる動向、イスラエル、米帝、

日本赤軍は、リッダ闘争の士的連帶と国際主義実践の地平を継承し、ガリリー作戦で示されたパレスチナ革命との共同した闘いを人類の最終的解放の日まで闘い抜きます。

日本赤軍は、リッダ闘争十五周年を迎える。日本赤軍はすべての戦士の名において、さらなる闘いに向けた革命と連帶のあいさつをおくります。同時に五月二〇日には岡本同志奪還・ガリリー作戦勝利二周年を迎え、我々日本赤軍はリッダ闘争戦士同志岡本との再会の喜びとガリリー作戦で示された進歩勢力の共通の願いであると同時に、自己の権益を拡大したいと考える進歩勢力内の矛盾は今も解決されない。また、レバノンの安定は、反CD路線でイスラエルと対話し、アラブ民族主義としての統一をはかるシリアにとって死活問題である。ベイルート空港の再開で、その安定化の努力は軌道にのつたかに見えた。しかし、サイダを焦点として南レバノンの緊張は、国際和平會議をめぐる動向、イスラエル、米帝、

五・三〇リッダ闘争 十五周年にあたって

戦士的連帯を強めよう

（日本赤軍特別資料）

レバノン内右派の動きを反映して、さらに高まっていく方向にある。

イスラエルも先制攻撃をつづけていいる。これらすべての要因は、南部レバノンにおける戦闘の激化に結びつくものである。シリアにとっても、

支持する。
⑨ 被占領地内のすべてのパレスチナ人の勢力と施設の統一をPLOの指導下に強化する。敵シオニストとの政策に反対する共同した闘争を発展させる。その政策とは、「自治」案、いわゆる「開発計画」を通した「合同行政政府案」、市長の任命等を含めてPLOに代わるものを作りうとする介入であり、これに反対する。それに対するのが人民と民族的機関の抵抗を支持する。

⑩ レバノンにおけるパレスチナ人キャンプの状況の調整を目的とした活動の統一の強化と、その存在の防衛、そしてPLOの指導下に人民の統一の強化を果たす。レバノンにおけるわが人民の権利を堅持する。権利とは、居住、労働、移動、政治社会活動の自由である。わが人民を追放し、武装解除しようとするすべての企みを拒否し、敵シオニストに対する闘争の権利を確認する。そしてPLOとレバノン共和国との関係を規定したカイロ協定に沿ってパレスチナ人民を防衛し、レバノンでのイスラエルの占領と対決しているレバノン同胞、民族勢力と共同をする。

⑪ いかなるどころでもすべての問題について保証し、パレスチナ人民

① アラブサミツ

- B アラブレベル

① アラブサミットの諸決議に沿って、アラブの連帯を強化し、アラブ被占領地を解放するために、全勢力を動員するという基礎のうえに、共同アラブ憲章、共同防衛協定を堅持する。シオニストの侵略とアラブ民族を支配しようとするアメリカ案と対決する。

② 帝国主義とシオニズムに対決し共同の民族的闘争の目的を実現しようととするアラブ解放運動との同盟関係を強化する。アラブ戦線の形成に全力を尽すにあたって、その一員としての革命を支持・防衛する民族的役割を果たすパレスチナ革命として参加していく。

③ 南部レバノンでのイスラエルの占領に対して闘うレバノン人民と民族的勢力の闘いを支持する。アラブ国家の一員としてのレバノン、独立

居住、移動、労働、教育、保健ならびに治安の権利を堅持する。また、アラブ連盟決議、世界人権憲章に従い、政治活動の自由を保証する。アラブの同じ兄弟としてアラブ民族主義に基づき、アラブとの関係を強化する。

シリヤ、アラブの戦闘的な関係の強化のためこゝに、対等の関係と相互尊重

- 国家を堅持するレバノン、そしてパレスチナ、レバノンの戦闘的同盟を強化するレバノンの統一を支持することである。

④ 反帝反シオニスト闘争を基礎として、PLOとシリアの関係を強化する。確立するため努力する。それはアラブ連盟サミットの決議に基づくとともに、ラバトおよびフェズでの決議に基づく。そして、パレスチナ、シリア、アラブの戦闘的な関係の強化のために、対等の関係と相互尊重を基礎としていく。

⑤ イラン・イラク戦争の停止のために努力する。なぜなら、この戦争が二つのイスラムの隣人の消耗と破滅に向かっているからである。帝国主義とシオニストだけが利益を得ている。そこで費やされているアラブ民族の努力と力は、この地域でアラブ民族とイスラム諸国に対するアメリカ帝国主義に支援されたイスラエルの侵略に直面して闘うという原理からはずれている。

PNCは、この戦争を終結させようと/or>するイラクの平和イニシアチブを評価する。終結のための条件を、それは両国間が相互の国家主権を全面的に尊重し、双方あるいは他国に対する不干涉と社会政治的選択を尊重す

⑥ ヨルダン関係
ノスチナ、ヨ

- ることによって良好な隣国関係をつくることであるとしている。PNCは、侵略下にある、あるいは侵略の脅威下にあるイラク、アラブ国土の防衛を支持する。PNCは、イランがイラク領土を占領することを非難する。また、イスラエルとアメリカがイランへの武器輸出を通して、戦争を継続させようとしていることを非難する。

⑥ ヨルダン関係

パレスチナ、ヨルダン人民の特別な関係性を認め、両人民およびアラブ民族の利益のためにその関係を発展させ、ヨルダン領へのイスラエルの拡張主義に対し、ヨルダンの独立を強化するための共闘を支持する。それは、不動のパレスチナ人の民族的諸権利——帰還・民族自決・パレスチナ独立国家の建設——の実現に向かうためである。それは、パレスチナ被占領地の内外にわたって、PLOが唯一合法のパレスチナ人民の代表であるという認識を基本にヨルダンとの関係を規定したPNC決議に基づく。すなわち、一九七四年のラバトサミット決議で確認されたものであり、将来のパレスチナ、ヨルダン関係も、二つの独立国家間の連合を基本にして成り立つとするもの

我々は日本の進歩的人々の中曾根自民党政権打倒と安保反対の闘いを支持します。また、地域で独占資本の横暴に対し住民の生活と権利を守り発展させる闘いを支持します。そして、困難な状況の中で闘いぬいている労働者の闘いを支持します。また、自民党政権の農民切捨てに対する闘いでいる農民の闘いを支持します。獄中で敵の死刑・重刑攻撃と闘っている同志たちの闘いを支持します。

我々の戦線は現在離れたものであつても、日本の人民の闘いに確実に一步ずつ近づいていることを、我々は確信し、現在を闘い抜いています。

七二年に開始した我々の戦士的連帯は、今も我々の基本精神として生き続け、よりその価値を増し、闘いを発展させています。

我々日本赤軍は「プロレタリア国際主義と組織された暴力」の旗を掲げ、復権させ、全力を尽くして、その一翼を担います。

国民會議決議

資料①

第一八回パレスチナ 国民會議決議

一九八七年五月二六日

アルジェ

PLO憲章とPNC（パレスチナ国民會議）決議を堅持し、我々は、パレスチナアラブ人民の唯一合法の代表としてのPLO（パレスチナ解放機構）における、パレスチナの民族的事業の基礎として、以下のことを確認する。

A パレスチナレベル

① パレスチナ人民の譲ることのできない民族的権利（帰還、民族自決、パレスチナの民族的領土におけるエルサレムを首都とするパレスチナ独立国家建設の権利）を堅持する。そして、この権利を保証するPLO政 治綱領を堅持する。

② PLOをわが人民の唯一合法の代表として認め、その代表権を代行

A パレスチナレベル

- 資料①

第一八回 パレスチナ

国民會議決議

一九八七年五月二六日

アルジエ

P L O 憲章と P N C (パレスチナ国民會議) 決議を堅持し、我々は、パレスチナアラブ人民の唯一合法の代表としての P L O (パレスチナ解放機構)における、パレスチナの民族的事業の基礎として、以下のことを確認する。

A パレスチナレベル

① パレスチナ人民の譲ることのできない民族的権利(帰還、民族自決、パレスチナの民族的領土におけるエルサレムを首都とするパレスチナ独立国家建設の権利)を堅持する。そして、この権利を保証する P L O 政治綱領を堅持する。

② P L O をわが人民の唯一合法の代表として認め、その代表権を代行

③ P L O の独立を堅持し、他政府の支配の下におこうとすることを拒否し、我々の内部問題への干渉を拒否し、不可侵の立場を堅持する。

④ 民族的目標を実現するために、武装闘争、大衆闘争、政治闘争等ある手段によって闘争する。イスラエルの占領下にあるパレスチナとアラブの領土を解放し、我々の地域での帝国主義とシオニストによる侵略に對決する。とりわけ、米アラブの「戦略的同盟」に対する試みに對決する。

⑤ 国連安保理二四二決議を拒否し続け、それをパレスチナ問題の解決方法としては認めない。なぜなら、それはパレスチナ問題を難民問題とみなし、パレスチナ人民の不動の民族的権利を無視しているからである。

⑥ C D (キャンプ・デービッド) 協定、レーイガン「中東和平案」、「自治」案、および「合同行政府案」などを、パレスチナ人の大義を清算しよとするすべての決議・計画を拒否し、それと対決する。

議が準備

- ⑧ P N C は、中東和平国際会議の開催をよびかけた国連決議八八／五八と四一／四八、ならびにパレスチナ問題に関する国連決議を尊重するP N C は、国連の責任の下に、このような国際会議を開催することに合意する。出席者は、国連の安保理常任理事国、P L O を含む中東の当事者である。P L O は、他の出席者と同等の権限をもつてこの会議に参加すべきである。P N C は、この会議が決定権をもつべきことを確認し、準備会を結成しようという提案を支持する。それが早急に結成されるとを要請する。

P N C は、第五回イスラム諸国首脳會議決議、第八回非同盟諸国会議ハラーレ大会とその調整委員会決議、アジスアベバで開かれたアフリカ統一機構の大会決議（これは、中東和平国際会議とその準備会の開催とそれを向けた努力を支持している）をある。

シリアル連共同声明要旨

資料②

一 世界の安全と平和について

現在もひととおり基本的な問題は、地球上の生命保持、そして暴力、核兵器その他の大量虐殺兵器のない民主的世界を地上に作ること。この点で、両国の意見は一致した。

健全な国際安全は、国家・人民間の相互信頼を作ること。これが、次の世代へ我々がひきつぐ贈り物である。

二 ソ連の大規模軍縮努力

二一世紀を展望し、二一世紀に入る前に現有兵器蓄積を廃止し、宇宙軍備を禁止し、現在よりも破壊能力の大きな兵器開発禁止を提案するソ連の軍縮努力は、国際関係を根本的に改革し、戦争と平和の問題を根本的に解決するものとしてある。

しかるに、現米国政府は、この大胆な提案、現実的措置に対し、何ら肯定的な反応を示さない。それどころか、SALT IIに違反し、新型核

四 テロルに関する

四 テロルに関して

世界の安全と平和を脅すものは、テロリズム、とくに国家テロである。という点で、両国の信念は一つである。

両国は、個人、集団、国家であれ、あらゆる形態のテロルを非難する。そして、人民の解放と独立要求に対し、帝国主義が自らの政策貫徹のためにテロルに訴えている現実に憂慮を表明する。

ソ連は、国連監督下の国際会議によりテロリズムと民族解放闘争の区

つまり、イスラエルが六七年戦争

つまり、イスラエルが六七年戦争で占領した土地から撤退し、当該国連決議に沿って帰還・自決・独立国家建設をパレスチナ人がかちどるまで、公正・包括的中東和平は実現されえない。部分的・単独解決方式、さらにはキャンプ・デービッド方式ではどうてい解决しえない。

このため、全関係者が国連監督下で有効な国際会議を行っていくことが、公正・包括的な解决になるといふ考えを支持する。この国際会議開催を組織する準備委員会の設置を支

すべき。

(ハ) イラン－イラク戦
イラン－イラク両
れたこの戦争を終結
中東の緊張緩和、中
反シオニズム勢力総
る。

(二) シリア－ソ連の
東の和平・安定の基
両国は、両国人民
あり、平和、独立、
る闘いにとつても最
と考える。このため

國人
の其
某地
体強
助力
本要
の最
社会
良の
兩

民によるこの地域の活性化に連携して、利益は

強制とは反対につながる。

國るめで。中が・さ

今 P N C 大会は、エジプトとその偉大な人民が、敵シオニズムに対し、歴史的な役割と、パレスチナ人民とその民族的な権利を防衛するために戦っているアラブの闘いで果たしている歴史において、パレスチナ、アラブの被占領地の解放をめざし、植民地主義、シオニズムからのアラブの解放と統一のためにあらゆるレベルで努力していることを確認する。そして P N C は、民族的国際的なエジプトの立場を認め、アラブ地域での民族的な役割を果たすために、エジプトがアラブ連盟に復帰する重要性を評価する。

そして、P N C は次のように決議する。

すなわち、第一五回 P.N.C. 大会決議を尊重し、確認するものであり、アラブ連盟のバグダッドサミット決議（ヨルダン、パレスチナ合同委員会の活動を含めた抵抗運動を支持する決議）に沿うものである。

○ C
国際レベル

- 帰還・パレスチナ独立国家の建設——および P L O は唯一合法の代表であるということ——パレスチナ人民の目標を実現し、敵シオニストとその支持者に対する、パレスチナ・アラブ人民の闘いを支援するとしたアラブサミット諸決議で確認されること——に基づいて、パレスチナ人民とエジプトの関係の基本を規定しなければならない。

C 國際レベル

① 國際的な諸解放運動との同盟關係を強化する。

② イスラム諸国、アフリカ諸国、非同盟諸国との共同闘争を行う。

③ 社会主義国との闘争關係を強化する。それは、何よりも第一に、ソ連との共同闘争であり、中華人民共和国との共同闘争である。

④ 民族解放のため、帝国主義とシオニストに対して闘う武装人民の諸闘争を支援する。とくに、南ア、東南アフリカ、中・南米の民族解放闘争への支援。アラブ民族とアフリカ人民に敵対する二つの人種差別政権

の侵略同盟を非難する。そして、ブレトリアの人種差別政権と闘うアフリカ諸国の闘争を支持する。さらに南ア人民、ナミビア人民の闘いを支持する。

⑤ 国際レベルの全活動の手段をもって、シオニズム人種差別主義の実態、被占領地支配諸行動を暴露していく活動を行う。とくに、この暴露しては、歴史的な一九七五年国連決議三三七七——シオニズムを人種差別主義の一形態と規定——に基づくものである。そして、同決議破棄を狙っているシオニスト——帝国主義者の諸活動を打倒していくことを重点にする。

⑥ 我が民族的大義に対し積極的な立場を発展させている諸国——ヨーロッパ諸国、日本、オーストラリア、カナダ等——が、さらにその立場を発展させていくような活動を活発に行う。そして、我が民族的権利を支持する帝国主義本国内民主的諸勢力、諸政党との関係を発展させる。

⑦ 國際平和を求める、軍拡競争阻止核実験防止による安定を要求する世界人民の闘いに参画し、この分野でのソ連邦のイニシアチブを支持し、イスラエルの核兵器の危険性を暴露していく。そして、南ア人民との共

六三
三三
一

同闘争によつて、国際レベルでは、から解放していきにイスラエルへ、
対して闘うパレスチナ人民の唯一を承認する勢力である。

卷之二

中東地域を核兵器占領と拡張主義に闘いを担う。民主的諸勢力、とナ人民の不動の民、自決、独立国家し、PLOがパレ合法代表であるこの関係を発展させ、国際会議、記者援を受けてジオニすべての策動を非するよう、国連の諸活動と共にし努力を高く評価すスチナ人民の闘いに示すように組織は、パレスチナ人復のための闘争支中の民間諸組織がく評価する。

- 西ベイルートで車爆弾発見、解体に成功。この日、東ベイルートでは二件の車爆弾が爆発し、一三人が負傷す。
- イスラエル
- ・反イスラエル・レジスタンスカルキリア付近、昨日殺されたユダヤ人入植者の葬儀。入植者のパレスチナ人の車、果樹への焼うち続く。
- ビール・ゼイト大では、学生と警官が衝突し、学生ムーサ・ハナフイ（二三歳）が殺さる。
- ・被占領地政策をめぐり（レバノン南部、ヨルダン川西岸、ゴランでのレジスタンスの高揚）、労働党

・ 中東政策—イラン—イラク戦問題
外交筋によると、クウェートはソ連タンカー「チャーチー」に合意（イラクへの兵器の一部は、クウェート行き）トから上陸しているので、八六年九月以降イランが攻撃した一九隻のうち一五隻がクウェート行き）これで、当面は、クウェートにソ連と同提案（護衛）をしている米を出しぬいたことになる。

イスラエル

① 政治犯のハンスト終了（イスラエル

- ①南部へのシリア軍展開開始。イスラエル機、サイダ上空を領空侵犯し、威嚇、偵察。
- ②治安回復妨害
- 西ベイルートで、高速で走る車から六ポンド爆弾が投げられ、市民が數名負傷。
- 東西ベイルートでは、境界線をはさま、二四時間の銃撃戦。
- ・再建

・四月一〇日に、国連総長が安保理常任理事国と中東和平国際会議に關して会議。八六年度国連総会決議に基づき、今年の五月一五日に、国際会議に關する総長報告書提出にむけた準備。

サウジアラビア

ス狩り。「セキユリティゾーン」外の村々を砲撃し、パトロール隊を出す。

再建・

① マロン派主教スフェイル、アルジエリアを公式訪問。アルジエリア国会議長ビタトと会見。ビタト議長は、独立維持、主権回復へむけたレバノンの努力支持を確認。スフェイルは、アルジェで、アラファト議長とも会見す(この時、ワイツマンからの密書をアラファトに渡したと噂されている)。

四月一三日(月)

対リクードで激論。リクードは、
強硬策を譲らず。

レバノン内戦、十二周年記念日。
一九七五年、パレスチナ人のバス
を右翼が襲撃し、虐殺。以来の内
戦による死者は一五万人ともされ
る。本日から、アルジェリアで「国
民対話」スタート(P N C 関連日
誌参照)。

シリア

- ・アサド大統領の四月末訪ソ公表さ
れる。
- ・陸軍実弾演習す。
- ・アサド大統領、P N C 議長ファフ
ームと会談。

(口)西岸では、二大学（ビール・ゼイ
ト大、ベツレヘム大）閉鎖、バラ
タキャンプの外出禁止等、「鉄拳
政策」。

(ハ)夜までに、一〇〇人以上を予備検
査。

(二)イスラエルラジオによると、この
間のレジスタンス高揚の二原因は
一、アラブ人囚人のハンスト
二、PLOのアンマン合意破棄
韓国側は、「ヨルダンの中東和平努
力支持」、ヨルダン側は、「韓國の
八八年オリエン匹ク成功を祈る」

アサド大統領と会見・シリア北部油田間連結パイプライン建設を、米企業が受注したと伝えられる。

イスラエル・反イスラエル・レジスタンス

①政治犯ハンスト、まだ三〇〇人が闘っているとされる。

②西岸五カ所の夜間外出禁止令解除。(ハナジャハ大、ビール・ゼイト大四カ月閉鎖に抗議し、四日間の自主閉鎖に入る。)

③ラビン曰く「反占領分子」の妨害活動に対し追加的措置をとらねばならない。

① 決議文採択、人事確認し終了。

論議は、エジプトとの関係規定に集中したとされる。結論としては「一六回PNC決議に沿つて」。

② エジプト代表団、これに抗議し、退場。

二六日

二六月以内に、「ダマスカスで新PNC開催の可能性あり」というニュース流れ出す。

(アラファート議長、本日のイラク入りを初めとし、アラブ反動各国を工作旅行（クウェート、アブダビ北イエメン、サウジアラビア）。

五月三日

PNSF—PFLP、PLF—ヤクブ派を除く四組織、PNC議長ファーフーム氏は、アサド大統領と会談。

五月四日

PFLP議長、ダマスカス入りしアサド大統領と会談。

アブ・イヤドを団長とするPLO代表団、中国外務省招待を受け、一一日間の公式訪中開始。

- ・再建
- ・サイダで、NPO（人民ナセリズム組織）議長のサアドが、PNSF代表と、南部のパレスチナ・キャンプ内でのレバノン一パレスチナ関係について討議。PNSSF代表は、サイダ東部の問題につき、パレスチナ各方面代表との会合を個別に行う。
- ・イスラエル
- ・反イスラエル・レジスタンス
西岸カルギリア村近くで、ユダヤ人入植者家族の車に火炎びんが投げられ、一家四人のうち妻が死亡

- ・対米共同
イスラエルのネゲブ砂漠にVOA送信所建設（五ヵ年計画）合意に、両国代表が調印。
- ・米帝
レーガン、国際会議支持表明。ただし、次の二点を前提条件とす。
 - 一、国連決議二四二、三三八を前提とする。
 - 二、全アラブ国は、イスラエルを承認する。
- 四月一二日（日）
レバノン
南部レジスタンス
イスラエルは、装甲車二〇台、一三〇人の部隊で「SLA」本拠地

二四

二七日

激動の中東

① チュニスにて、PLO-EC（執行委員会）「PLO-ヨルダン関係の発展により、アンマン合意が障害となっているので、これを破棄する」声明発表。

④エジプト政府、PLO事務所閉鎖を命令す。

活動の中東 ドキュメント

の攻撃のあつた地域一帯の果樹を切り倒し、ブルドーザーでならしましまう。さらに、付近一帯に外出禁止令（以降、ユダヤ人入植者の攻撃、焼うち敷化）。

- イスラエル
 - ・反占領レジスタンスへの弾圧
 - 国会で、死刑、国外追放等の重刑導入案が出される（イスラエルは死刑廃止している）。
- シリア
 - ・シリア石油相、イランへ。
 - モロッコ
- ・南部方面軍司令官発表によると、一六日（木）に、全長五五〇キロの対西サハラ・ゲリラ防衛壁完成書を渡す。
- 四月二〇日（月）
 - シリアル
 - イスラエル
 - ・イラン副外相、シリアへ。アサド大統領にハメネイ大統領からの親書を渡す。
 - ・反イスラエル・レジスタンス
 - ガザのハーレン・ユニス町で、デモ隊が火炎びん、投石で警官隊と衝突。青年一名が射殺される。ガザのイスラム大、一週間の閉鎖処分うける。
 - ・国際会議
 - シャミル、独立パレスチナ建国国拒否を再確認。

（二）ベルギー外相、TV会見で、国際会議開催での問題点を次のようにまとめた。

一、その目的（編注）単なる形式か、それとも強制力をもつものか）

二、パレスチナ人の参加（編注）代表権問題）

サウジアラビア

・ファハド国王、スペイン公式訪問

・全斗煥親書を韓国代表がハサン皇太子を通してフセインに。

四月二一日（火）

レバノン

・南部レジスタンス

① L R F（レバノン・レジスタンス戦線）軍報、「本日未明、被占領地パレスチナのガリラヤ地方をロケット砲攻撃し、敵弾薬庫を直撃せり」。

（二）昨日も、同地方のナハリヤ入植村へのロケット砲攻撃があつた。

⑧ 「セキュリティゾーン」では、「S LA」、イスラエル拠点を数カ所ロケット砲攻撃。

（二）イスラエルは、サイダ上空を威嚇飛行。「セキュリティゾーン」近辺の村々への砲撃、その後、レジス

・第一〇回アラブサット（アラブ宇宙通信衛星）総会、トリポリにて二日間の会期スタート。

・リビア－イラン共同経済委員会第一次会議、八七年未までに行うことを発表。

ソ連

・中東政策－イラン－イラク戦争問題

ペトロフスキ－外務次官、U A E で、イラン－イラク戦争停戦へむけた新提案。『ガルフ諸国代表＋国連安理会常任理事国が停戦工作する』というもの。

四月二二日（水）

- 南部レジスタンス
- ①「セキュリティゾーン」近くの「S L A」拠点をロケット砲攻撃。ロール隊に対し、待ち伏せ攻撃二回。うち一回は一時間の戦闘。
- ②被占領パレスチナのガリラヤ地方のキリヤト・シャモナ入植村をロケット砲攻撃。

③「S L A」拠点を攻撃し、イスラエル兵數名を負傷さす。

シリア

・ファハド国王メッセージを携え、

・駐アンマン大使曰く、
一、むこう数カ月は、イスラエル
との復交ありえぬ。
二、ソ連ユダヤ人の移民ふやす予
定はない。

三、国際会議は、イスラエルも参
加し、イスラエルの六七年ライ
ンからの撤退、バスの自決権を
承認するのであるべき。

イスラエル

- ・反イスラエル・レジスタンス
- ガザ大学で、学生がイスラエル車
に投石。イスラエル警官が学生を
こん棒でなぐり、九人が負傷、入
院。

米帝

- ・対エジプト政策

下院歳出委員会委員のウイルソン
下院議員（テキサス、民主党）、
二〇回めのエジプト入り。ムバラ
クと会談した後、アジアへ。

E C

- ・対エジプト政策

五六年（八七年一九二年）経済援
助合意（総計五億ドル）に、カイ
ロで調印。

仏

- ・仏参謀長、U A E入り。U A Eが

レバノン・再建①アルジエリア公式訪問を終え、スフェイユ主教帰国。

②L.P.のジャジャ声明発表

一、シリア軍の展開に反対。

二、東ベイルート砲撃は、誰がやろうとも、シリアが責任を負うものとみなす。

（ハシューブ山岳部で、シリア軍とP.S.P.の小競り合いがあつたとされる。シリア側は、否定。

イスラエル

- ・反イスラエル・レジスタンス
- ・ムーサ・ハナフィ殺害抗議の暴動
- ・ラマッラーでは、今日で三日め。
- ・リビア

四月一六日（木）ヨルダン

（四）ナイフ内相、一三日から日本政府
① フィリピン
印。
・イスラエルとの間に観光合意を調
べ
・ベルギー外相、本日アンマンから
カイロへ。アンマン空港で、「国
連安保理監督下の国際会議支持。
現在、条件が煮つまつた。ヨルダ
ンは鍵を握る国」と記者会見で曰
く。また、カイロ空港では、「エ
ジプトの参加しない国際会議はあ
りえぬ」と曰く。
サウジアラビア
② ファハド国王、公式訪仏（二日間）
開始。
ミッテランは、「地域のすべての
国、パレスチナ人も含めた国際会
議を行うべき」と発言（從来の立
場）。

四月一七日（金）

レバノン・再建

①本日、この二四時間で四件の爆弾が西ベイルートをゆるがす。AU B構内、コーラ通り等、シリア軍を狙つたもの。後者の車爆弾は、三月二八日に次ぐ大きなもの。

②東西ベイルート通過点、二カ所にふえる（従来は、郊外の迂回一カ所のみで、LFとアマルに通行税を払わねばならなかつた）。

（ハ）今朝、シーア区とドルーズ区の境で、両派が小ぜりあい。

アラブ連盟

・イラン－イラク戦停戦のため、国連決議五八二実行要請にむけ、サウジ外相を団長とするアラブ連盟代表団が安保理理事国工作。本日訪仏。

- イランがこの五日間で二回めのバ
スラ爆撃をしたと非難。
- ソ連
- 中東政策
- ペトロフスキイ外務次官、本日、
クウェート入り。
- EC
- ベルギー外相、帰国。
- 四月一九日(日)
- レバノン
- 南部レジスタンス
- イスラエル領内侵入、人質をとり
パレスチナ政治犯釈放をかちとる
作戦を敢行しようとしたパレスチ
ナ・コマンド五人がイスラエル軍
と交戦。二人戦死、三名が捕虜と
なる。敵兵二名をせん滅す。イス

(二)米大使、八四年來初の経済援助（八四〇万ドル相当の食糧）をジエマイエル大統領に約束。

イスラエル

・国際会議

労働党討議における各幹部の見解

一、ペレス

リクードは、キャンプ・デービッド合意実施、レバノンからの撤退に反対しているが、リクードが現政策を継続するなら、エジプトとの和平は成立せず、レバノン駐留を継続せねばならない。国際會議には、ヨルダン-ペレスチナ合同代表団参加が可能と思う”

二、ラビン

”パレスチナ問題の解決は、ヨルダンとの直接対話ではできない”

三、ワックスマン

”アラファトが決議二四二、三三八を承認すれば、PLOの国際會議参加を認める”

（ワックスマンは、PLO幹部と国外で接触したとされる——編注）

イラン

・北部戦線での優勢を発表。ガルフ外交筋によると、イランの北部攻勢展開は、”一一〇〇キロもの長い戦線は、イラクの弱点”というイランの主張証明のためと分析。

（二）米大使、八四年來初の経済援助（八四〇万ドル相当の食糧）をジエマイエル大統領に約束。

イスラエル

・国際会議

労働党討議における各幹部の見解

一、ペレス

リクードは、キャンプ・デービッド合意実施、レバノンからの撤退に反対しているが、リクードが現政策を継続するなら、エジプトとの和平は成立せず、レバノン駐留を継続せねばならない。国際會議には、ヨルダン-ペレスチナ合同代表団参加が可能と思う”

二、ラビン

”パレスチナ問題の解決は、ヨルダンとの直接対話ではできない”

三、ワックスマン

”アラファトが決議二四二、三三八を承認すれば、PLOの国際會議参加を認める”

（ワックスマンは、PLO幹部と国外で接触したとされる——編注）

イラン

・北部戦線での優勢を発表。ガルフ外交筋によると、イランの北部攻勢展開は、”一一〇〇キロもの長い戦線は、イラクの弱点”というイランの主張証明のためと分析。

サウジアラビア

・東部州知事ファハド王子、エジプトのマスコミ代表団と会見。

四月二八日（火）

（編注——イスラエルと正式関係のある国へのサウジアラビアの対応に注目すべき）

四月二九日（水）

・再建

シリア軍、ベイルート南部のティロ三角地帯に展開し、アマルとドルーズの中間に割って入る。また、近くにはハジビッラー地区もあり、いつでも介入できる陣型をシリア軍がとったことになる。

ソ連

・中東政策

イラン訪問中のペトロフスキーエ務次官曰く、

一、中東、ガルフの緊張の元凶は米なり。

二、ハラレ非同盟声明、ICOサミット声明、EC外相イニシアチブ等、国際的国際會議を要求する気運が高い。しかし、米ソ連

（二）ハラレ非同盟声明、ICOサミット声明、EC外相イニシアチブ等、国際的国際會議を要求する気運が高い。しかし、米ソ連

（二）ハラレ非同盟声明、ICOサミット声明、EC外相イニシアチブ等、国際的国際會議を要求する気運が高い。しかし、米ソ連

（二）ハラレ非同盟声明、ICOサミット声明、EC外相イニシアチブ等、国際的国際會議を要求する気運が高い。しかし、米ソ連

（二）ハラレ非同盟声明、ICOサミット声明、EC外相イニシアチブ等、国際的国際會議を要求する気運が高い。しかし、米ソ連

（一）昨年来三回めの全国スト。GLF（レバノン労働総同盟）のよびかけ。要求項目は、

一、賃上げ。インフレとリンクせず。（今年一月に公務員賃上げ四〇%があったが、通貨値崩れで、公務員賃金は月二〇%とされる——編注）

二、労働者の経営参加（欧洲レベルに）

三、肉戦終結

四、政府は、現在の社会・経済政策を変更せよ。

五、輸入、住宅、医療分野の無政府的現状に対し、政府が即時介入し、止めさせよ。

六、七カ月ぶりの閣議

（二）パレスチナ問題は、アラブ間共同のリトマス試験紙なり。

（三）アラブ弁護士協会第一六回大会で、クウェート元首曰く、

一、イランは、戦争終結交渉に参加せよ。

二、アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（四）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（五）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（六）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（七）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（八）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（九）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（十）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（十一）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（十二）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（十三）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（十四）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（十五）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（十六）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（十七）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（十八）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（十九）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（二十）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（二十一）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（二十二）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（二十三）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（二十四）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（二十五）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（二十六）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（二十七）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（二十八）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（二十九）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（三十）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（三十一）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（三十二）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（三十三）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（三十四）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（三十五）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（三十六）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（三十七）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（三十八）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（三十九）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（四十）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（四十一）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（四十二）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（四十三）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（四十四）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（四十五）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（四十六）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（四十七）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（四十八）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（四十九）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（五十）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（五十一）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（五十二）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（五十三）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（五十四）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（五十五）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（五十六）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（五十七）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（五十八）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（五十九）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（六十）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（六十一）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（六十二）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（六十三）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（六十四）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（六十五）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（六十六）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（六十七）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（六十八）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（六十九）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（七十）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（七十一）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（七十二）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（七十三）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（七十四）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（七十五）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（七十六）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（七十七）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（七十八）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（七十九）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（八十）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（八十一）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（八十二）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（八十三）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（八十四）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（八十五）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（八十六）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（八十七）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（八十八）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（八十九）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（九十）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（九十一）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（九十二）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（九十三）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（九十四）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（九十五）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（九十六）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（九十七）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（九十八）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（九十九）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（一百）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（一百一）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（一百二）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（一百三）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（一百四）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（一百五）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（一百六）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（一百七）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（一百八）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（一百九）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（一百十）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（一百十一）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（一百十二）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（一百十三）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（一百十四）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（一百十五）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（一百十六）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（一百十七）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（一百十八）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（一百十九）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（一百二十）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（一百二十一）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（一百二十二）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（一百二十三）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（一百二十四）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（一百二十五）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（一百二十六）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（一百二十七）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（一百二十八）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（一百二十九）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（一百三十）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（一百三十一）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（一百三十二）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（一百三十三）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（一百三十四）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（一百三十五）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（一百三十六）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（一百三十七）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（一百三十八）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（一百三十九）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（一百四十）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（一百四十一）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（一百四十二）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（一百四十三）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（一百四十四）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（一百四十五）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（一百四十六）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（一百四十七）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（一百四十八）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（一百四十九）アラブ大統領、二年ぶりの訪ソ。

（一百五十）ア

- LA」二をせん滅し、レジスタンス側は三三一名が戦死した。
再建
- 四月度の内戦による死者は八四年一月来初の八〇人台になった。
- 外務省、「地域における米国同盟者を満足させんがために、ソ連がこの地域での影響力を拡大している」とし、ソ連批判。
- イラク 外務省、「一九九年間初めて。」
米帝
- 仏筋によると、リビア軍が残していったM1三四ソ連製ヘリ研究のために、米軍事専門家チームがチヤドに入った。
- 国務省スポーツマン、ペレス訪米五月一四一十九日と発表。
- イスラエル
- 反イスラエル・レジスタンス 西岸南部のヘブロン市で、イスラエル兵一名をナイフで刺す。
- 「先週、ペレスがフセイン王と密会し、国際会議方式について検討した」との噂、流す。
- 五月二日（土） レバノン 南部レジスタンス

- ① LRF声明「セキュリティゾーン」で「SLA」拠点二カ所に対して、ミサイル攻撃、および砲撃せり。
- ② イスラエルは、サイダー被占領パレスチナ間を高速艇、戦艦出動させて哨戒。南部諸村を砲撃、モルタル砲撃。空軍も、レバノン領空侵犯して、偵察飛行。
- ヨルダン
- フセインペレス秘密会談（イスラエル存在承認、暴力的解決否定等、国際会議方式の理解とされる）を否定。
- エジプト
- リファイ、二〇年ぶりの国会総選挙を内相に指示（八七年度中にとのこと）。
- エジプト
- エジプトヨルダン高等評議会にむけ、首相以下代表団が五日からアンマン入り予定。経済、政治問題討議のため。
- IMFとの交渉で、五億ドルの新規借款、現在の負債リスクに合意成立。最終的つめ、調印は、五月末、パリ交渉で。
- 再建

- ③ 南部レジスタンス
- ④ 本日未明、被占領パレスチナ内入植地二カ所を砲撃。
- ⑤ イスラエル軍は、照明弾をうち上げ、ヘリで「セキュリティゾーン」中央部を捜査。
- ⑥ U.N.I.F.I.Lに完全警戒態勢令。イスラエルの新侵略可能性大のた

- に、米銀行家リード内定。着任は七月一日から。リードは、ロックフェラー財団会長秘書を七一年からつとめてきた。
- ⑦ 南部レジスタンス 昨日も被占領パレスチナのガリラヤ地方ナハリヤ入植村他二カ所にロケット砲攻撃。「セキュリティゾーン」では、「SLA」パトロールを狙った地雷攻撃。
- ⑧ レバノン
- ⑨ ニューゼウィーク誌が、シリア－イラク大統領の会見（アサド大統領訪ソ直後、アンマンにて）を暴露。シリア、イラクとも、沈黙。
- ⑩ シリア
- ⑪ ペレス曰く「会議で何か条件をおしつけられた場合は、米もイスラエルもぬけるという点で、両国の理解は一致している」
- ⑫ 国際会議
- ⑬ ペレス曰く「会議で何か条件をおしつけられた場合は、米もイスラエルもぬけるという点で、両国の理解は一致している」
- ⑭ 対米共同
- ⑮ 米は、最近訪米したイスラエル軍首脳との間にM-18三三対戦車ミサイル大量供与に調印（新参謀長官リエンテベ作戦指揮官の主張する火力増強、近代化再編方針の実行）。
- ⑯ 「建国」三十九周年記念式典
- ⑰ ヒロヒトもヘルツォグ大統領に祝電を送った。
- ⑱ レーヴィは、「八八年度の建国四十周年をイスラエルで祝いたい」とし、イスラエル訪問の意向。

- 月に発足したカラミ内閣は、二〇〇%のインフレ、二〇〇%の失業、一二年間の内戦等、何一つ問題を解決していない。
- イスラエル
- ⑲ 反イスラエル・レジスタンスヘブロンでのイスラエル兵刺傷闘争後、二五〇人の学生が逮捕され、付近への外出禁止令。
- ⑳ 解決していない。
- イスラエル
- ⑲ 反イスラエル・レジスタンスヘブロンでのイスラエル兵刺傷闘争後、二五〇人の学生が逮捕され、付近への外出禁止令。
- ⑳ 解決していない。
- カラミ首相、辞意表明。八四年四月に発足したカラミ内閣は、二〇〇%のインフレ、二〇〇%の失業、一二年間の内戦等、何一つ問題を解決していない。